

撮影する(基本編)

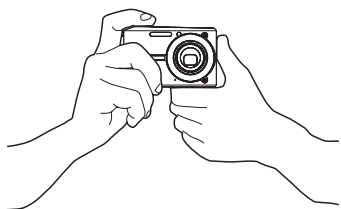
ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

基本的な撮影のしかた

カメラの正しい構えかた

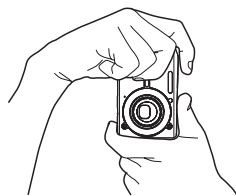
カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ブレを起こす恐れがあります。

• 横に持つ場合



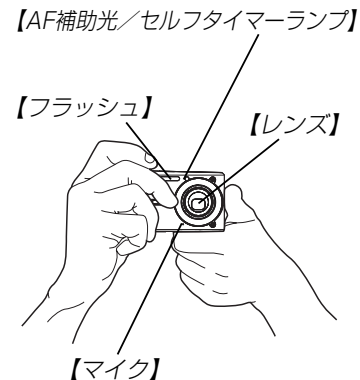
両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかり締めてください。

• 縦に持つ場合



縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上にくるようにして、カメラをしっかり持ってください。

重要! • 指やストラップが、右記の部分にかからないように注意してください。



参考 • 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときは、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。

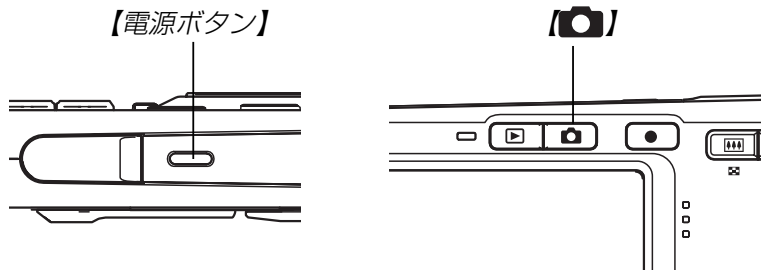
撮影する




本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵メモリーに保存されます。



- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC<マルチメディアカード>)に保存することもできます(132ページ)。

市販のメモリーカードを使用する場合は、あらかじめメモリーカードを入れて、メモリーカードのフォーマットを行ってください(134ページ)。

1. **【電源ボタン】**または**【】(REC)**を押して、電源を入れます。

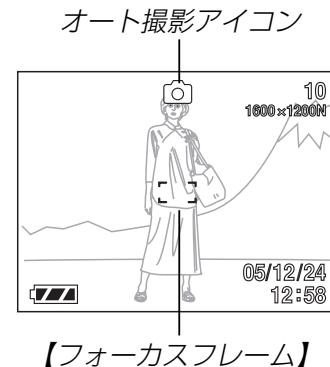


- 【液晶モニター】に画像とオート撮影アイコン“”が表示されます。オート撮影アイコン“”が表示されない場合は、68ページの操作で“オート”のシーンを選び、“”を表示させてください。

- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- すでに電源が入っている状態で下記のようにPLAY(再生)モードになっている場合は、**【】**を押してREC(撮影)モードに切り替えてください。
 - －「ファイルがありません」と表示されている。
 - －“”が【液晶モニター】の上部に表示されている。

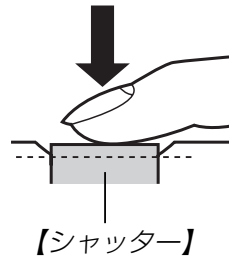
2. **【液晶モニター】**に表示されている**【フォーカスフレーム】**を被写体に合わせます。

- 撮影できる距離は、フォーカスモードによって異なります(57ページ)。

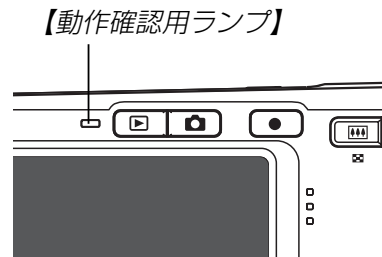


3. 【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度、絞り値、およびISO感度が表示されます。

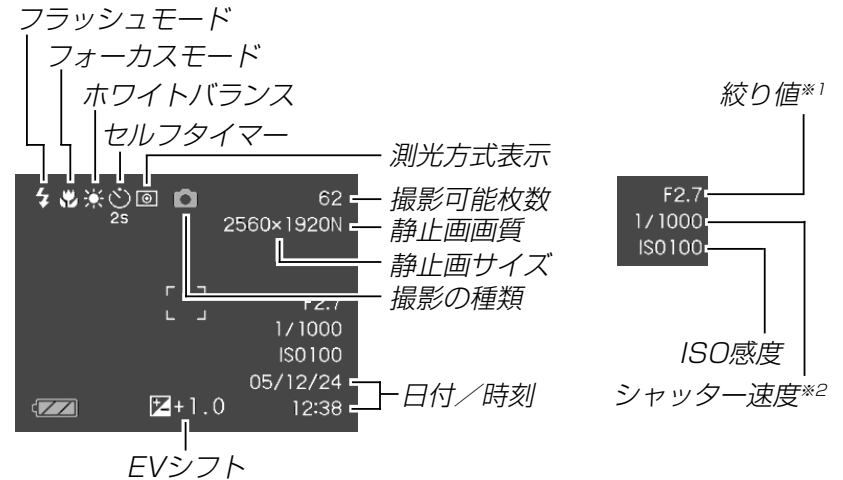


- ピントは【フォーカスフレーム】や【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

- 【液晶モニター】にはさまざまな情報が表示されます。

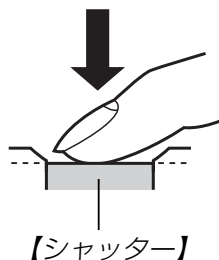


※1 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(絞り)の開口部の大きさの値です。数値が大きくなるほど、光が通る開口部の大きさが狭くなります。本機では自動的に調整されます。

※2 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(シャッター)の動作速度のことです。時間が長くなるほど光の量は増えます。本機では自動的に調整されます。

4. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。

- サイズ、画質によって撮影できる枚数が異なります(55、56、185ページ)。

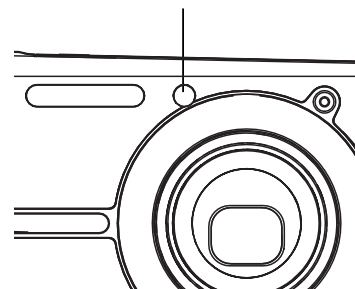


- 重要!**
- “撮影設定”の“クイックシャッター”を”入”に設定している場合(59ページ)、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすると、オートフォーカスが作動せずに撮影されます。シャッターチャンス逃さずに撮影することができます。

■ AF補助光について

暗い場所などで撮影しようとしたとき、ピントを合わせやすくするために、【AF補助光／セルフタイマーランプ】で自動的に補助光を発光します。

【AF補助光／セルフタイマーランプ】



なお、このAF補助光は発光する／しないを切り替えることができます。至近距離で人物などを撮影するときは、AF補助光は発光しないことをおすすめします。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“AF補助光”を選び、【▶】を押します。


4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：AF補助光を発光します。

切：AF補助光を発光しません。

重要! • 【AF補助光／セルフタイマーランプ】を覗いたり、人の目に当てないように注意してください。

■ 撮影時のご注意

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間に【電池カバー】を開けたり、カメラをUSBクレードルにセットすることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(91ページ)は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(91ページ)は、被写体が暗いときに感度を上げてシャッタースピードを速くするようにしていますが、フラッシュの発光方法(49ページ)が  (発光禁止) のときには手ブレに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

■ オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことや正確でないことがあります。
 - － 階調のない壁などコントラストが少ない被写体
 - － 強い逆光のもとにある被写体
 - － 明るく光っている被写体
 - － ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - － カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - － 暗い場所にある被写体
 - － 手ブレをしているとき
 - － 動きの速い被写体
 - － 撮影範囲外の被写体
- 【動作確認用ランプ】が緑色に点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(63ページ)やマニュアルフォーカス(62ページ)をご利用ください。

■ 撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の画像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画(75ページ)にはそのまま記録されますので、ご注意ください。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。


光学ズーム


レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

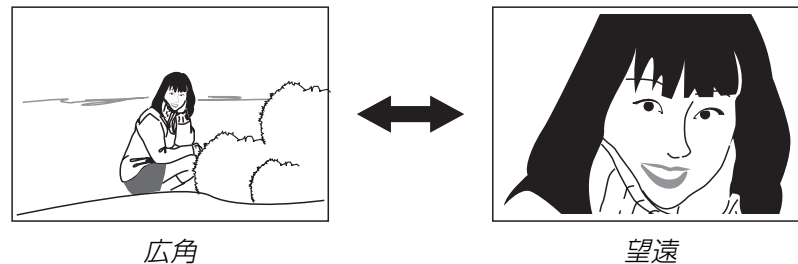
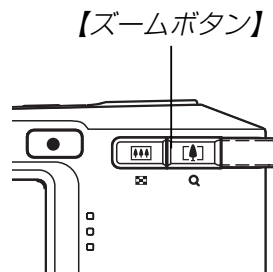
倍率：1～3倍

1. RECモードにします。

2. 【ズームボタン】を押して、ズームの倍率を変えます。

 (広角)：広角になります。

 (望遠)：望遠になります。



3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 参考**
- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
 - 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
 - オートフォーカス／マクロ(接写)／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に撮影可能な距離の範囲が表示されます(58、60、62ページ)。
 - 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【●】(MOVIE)を押す前であれば、光学ズームは使用できます(75ページ)。

デジタルズーム

光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

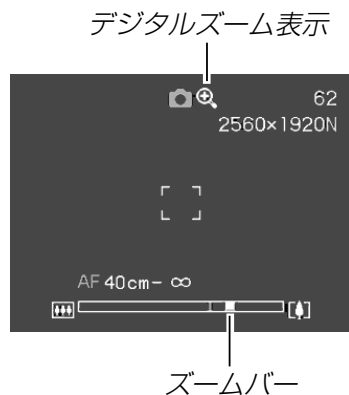
倍率：3～12倍(光学ズーム併用)

重要! • デジタルズームを使ってズーム撮影すると、画面の中央をデジタル処理で拡大するため、光学ズームと異なり画像は粗くなります。

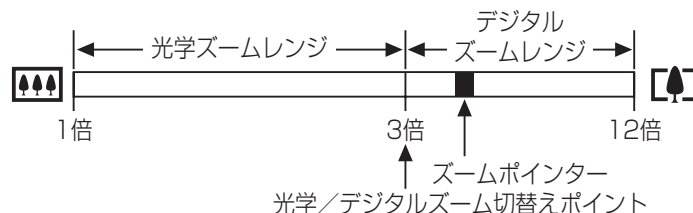
■デジタルズームを使って撮影する

1. RECモードにし、【ズームボタン】の[望遠]側を押して、ズームの倍率を変えます。

- 【ズームボタン】を押すと、【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。



2. 【ズームボタン】を押して、光学ズームが最も望遠になると(ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントにくると)、いったんズーム動作を停止します。



- ズームバーのデジタルズームレンジは、デジタルズームが“入”に設定されているときにのみ表示されます(49ページ)。

3. 続けて【ズームボタン】の[望遠]側を押すと、ズームポインターがデジタルズームレンジに入り、デジタルズームに切り替わります。

- 【ズームボタン】の[広角]側を押すと、ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントでいったん停止した後、光学ズームレンジに戻り、光学ズームに切り替わります。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

■デジタルズーム機能のオン/オフを切り替える

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“デジタルズーム”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。

入：デジタルズーム機能が働きます。

切：デジタルズーム機能は働きません。

- “切”を選ぶと、ズームバーには光学ズームレンジのみが表示されます。

フラッシュを使って撮影する

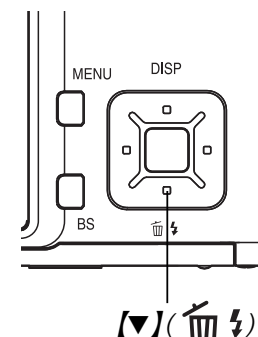
撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

- フラッシュの撮影範囲は下記の通りです。
 広角時：約0.4m～約2.8m (ISO感度オート時)
 望遠時：約0.4m～約1.4m (ISO感度オート時)
 ※ 光学ズームにより、撮影範囲は変化します。

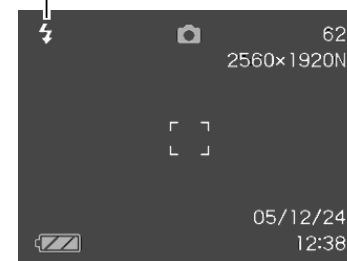
1. RECモードにします。

2. 【▼】()を押して、フラッシュの発光方法を選びます。

- 【▼】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。





フラッシュモード表示





表示なし(フラッシュオート)

：露出(光の量や明るさ)に合わせて自動的に発光します。



- アイコンガイド(89ページ)を使用している場合は、“フラッシュオート”を選んでください。

 (発光禁止)：露出に関係なく発光しません。


 (強制発光)：露出に関係なく強制的に発光します。

 (赤目軽減)：フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 重要!**
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光(露出情報を得るための予備発光)し、最後にメイン発光(フラッシュ撮影するための発光)することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
 - ISO感度が“オート”の場合は、感度が高くなるため、フラッシュ使用時にノイズが多くなります。ISO感度を下げると撮影範囲(フラッシュの光が届く範囲)が短くなりますが、ノイズは少なくなります(91ページ)。
 - 動画撮影中に【】()を押しても、静止画撮影でのフラッシュ発光方法を切り替えることができます(81ページ)。

■ 強制発光について

日中の撮影で、逆光などで被写体が暗くなるような場合は、フラッシュの発光方法を (強制発光)を選んで、フラッシュを発光させて撮影してください(日中シンクロ撮影)。フラッシュの光により、被写体を明るく撮影することができます。

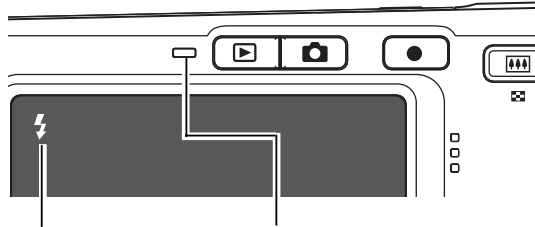
■ 赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。


- 重要!**
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
 - － 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
 - － 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や【動作確認用ランプ】で確認できます。



【液晶モニター】

- フラッシュ発光時は  が表示されます。

【動作確認用ランプ】

- オレンジ点滅：フラッシュ充電中
- 赤点灯：フラッシュ充電完了

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“フラッシュ光量”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

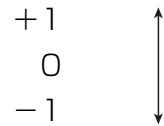
+2：強く光る

+1

0

-1

-2：弱く光る



重要! • 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

フラッシュ撮影時の光量の不足を補う (フラッシュアシスト機能)

フラッシュの撮影範囲よりも遠い被写体を撮影したとき、撮影に必要なフラッシュ光量が得られずに、被写体が暗く写ってしまう場合があります。そのような場合、この機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光がより遠くへ届いたときと似たような効果を得ることができます。



フラッシュアシスト機能
未使用



フラッシュアシスト機能
使用



1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“フラッシュアシスト”を選び、【▶】を押します。

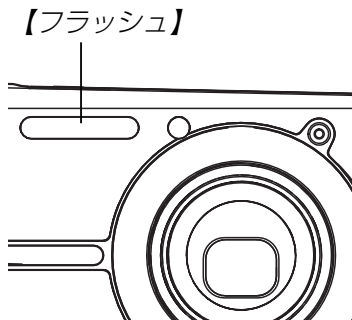
4. 【▲】【▼】で“オート”を選び、【SET】を押します。

- “切”を選ぶと、フラッシュアシスト機能は働きません。

- 重要!**
- 被写体によっては、思ったような効果が得られないことがあります。
 - 下記のような操作を行ったとき、フラッシュアシスト機能を使用した撮影結果にほとんど変化が表れない場合があります。
 - フラッシュ光量を切り替えたとき(51ページ)
 - 露出補正(EVシフト)を行ったとき(63ページ)
 - ISO感度を切り替えたとき(91ページ)
 - コントラストの設定を切り替えたとき(95ページ)
 - フラッシュアシスト機能動作時、ノイズが増える場合があります。

■ フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- 被写体までの距離が遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。
数秒～10秒程度(フル充電の場合)
- 動画撮影時は、フラッシュは発光しません。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。速やかに電池を充電してください。
- 暗い場所で撮影するときにフラッシュを  (発光禁止) に設定すると、シャッター速度が遅くなるので、手ブレを防ぐために、カメラを三脚などで固定するようにしてください。なお、このとき撮影した画像は多少ざらついた感じ(ノイズが発生した画像)になる場合があります。
-  (赤目軽減) では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。



セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する(トリプルセルフタイマー)こともできます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“セルフタイマー”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押します。



10秒 : 10秒後に撮影されます。



2秒 : 2秒後に撮影されます。

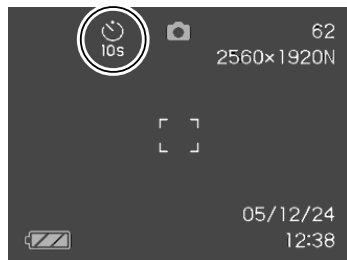


×3 : 10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます(トリプルセルフタイマー)。

切 : セルフタイマーは使用できません。

撮影する(基本編)

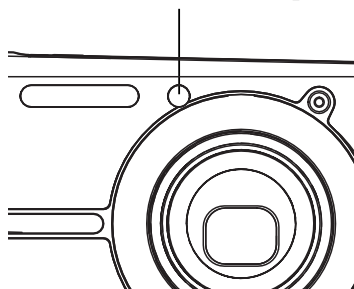
- 【液晶モニター】にセルフタイマーの種類が表示されます。



5. 【シャッター】を押して撮影します。

- 【AF補助光／セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

【AF補助光／
セルフタイマーランプ】



参考

- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ブレ防止になります。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の“サイズ”や“画質”とメモリーカードの有無またはフラッシュの充電の有無によって異なります。
- 動画撮影中の静止画撮影では、セルフタイマーは使用できません。
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーは使用できません。
ビジネスショット、動画撮影

画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数(pixels)で表したものです。この画素数は1枚の画像を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きいほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画のサイズについては、76ページをご覧ください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“サイズ”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。
 - 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズが交互に表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。


画素数(pixels)		プリントサイズ
大きい ↑ ↓ 小さい	2560×1920	A3プリント
	2560×1712 (3:2)	A3プリント ※横縦比が3:2になります。
	2304×1728	A4プリント
	2048×1536	A4プリント
	1600×1200	L判プリント
小さい	640×480	Eメール ※Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

- 「プリントサイズ」は、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- “2560×1712(3:2)”を選ぶと、プリント紙の横縦比3:2に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。用途に合わせて画質を変更してください。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画の画質については、76ページをご覧ください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“ 画質”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

設定内容		選択時の目安
高画質	高精細-F	画質を優先したいとき
↑ ↓	標準-N	通常の撮影をするとき
低画質	エコノミー-E	撮影枚数を優先したいとき

- 重要!** • 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(23、185ページ)。

撮影する(応用編)

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカスの5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

- AF** (オートフォーカス) : 自動的にピントを合わせます。
- マクロ(接写)** : 近くのを撮影するときに使用します。
- PF** (パンフォーカス) : ある被写体距離にピントが合うようにフォーカスが調整されます。
- ∞** (無限遠) : 遠景を撮影するときに使用します。
- MF** (マニュアルフォーカス) : 手でピントを合わせるときに使用します。

- 【液晶モニター】に、設定したフォーカスモードが表示されます。



- 重要!**
- 動画撮影時のAFモードとマクロモードは固定焦点となります。
 - キーカスタマイズ機能を使うと、静止画撮影時や動画撮影中に【◀】【▶】を押すだけでフォーカスモードを切り替えることができます(87ページ)。

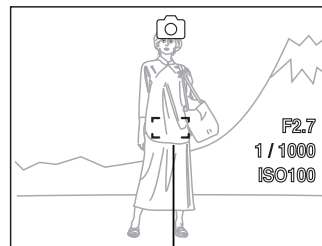
自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能が働き、自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

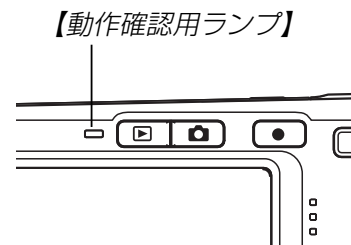
範囲：約40cm～∞(無限遠)

※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“AF”を選びます。
4. ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中に入れて、【シャッター】を半押しします。
 - 【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。



【フォーカスフレーム】



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

5. 【シャッター】を全押しして撮影します。

- 参考**
- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロ(60ページ)の範囲までピント調整を行います(オートマクロ)。
 - オートフォーカス撮影時に光学ズーム(47ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例：AF40cm - ∞

■ クイックシャッター機能について

クイックシャッター機能を使うと、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすることで、オートフォーカスを作動せずに撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

1. RECモードで【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。



入：クイックシャッターが機能します。
切：クイックシャッターが機能しません。


■ オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える


オートフォーカスモード、マクロモードでは、オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。設定によって【フォーカスフレーム】の形状も変わります。

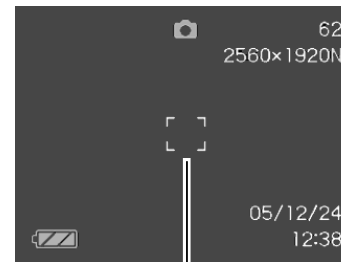
1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

- 【】 スポット：中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(63ページ)を活用した撮影に便利です。
- 【】 マルチ：【シャッター】を半押しすると、9つの測距点の中で、距離が一番近い被写体にピントを合わせます。集合写真などに便利です。

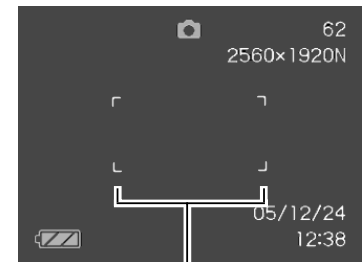
参考 ● “ マルチ”に設定すると、幅広い【フォーカスフレーム】が表示されます。【シャッター】を半押しすると、ピントが合った場所の【フォーカスフレーム】が表示されます。

“ スポット”の場合



【フォーカスフレーム】

“ マルチ”の場合




【フォーカスフレーム】


近くを撮影する(マクロ)

近くのものにピントを合わせて撮影します。ピントが合う距離は下記の通りです。

範囲：約17cm～50cm

※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“ マクロ”を選びます。
4. 【シャッター】を押して撮影します。
 - ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

- 参考**
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカス(58ページ)の範囲までピント調整を行います(オートマクロ)。
 - マクロ(接写)撮影時に光学ズーム(47ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例： 17cm - 50cm

- 重要!**
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがありますので、ご注意ください。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

パンフォーカスモードでは、ある被写体距離にピントが固定されますので、オートフォーカスの動作を行わずに撮影することができます。オートフォーカスが難しい状況での撮影や、オートフォーカスの動作音が気になる静かな環境などでの撮影に便利です。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“PF”を選びます。
4. 【シャッター】を押して撮影します。

参考 • 【シャッター】を半押しすることで、【液晶モニター】にピントが合う範囲が表示されます。
例：1.1m - ∞

遠くを撮影する(無限遠)

無限遠では∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“∞”を選びます。
4. 【シャッター】を押して撮影します。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約17cm~∞
3倍	約40cm~∞

※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

- RECモードにして【MENU】を押します。
- “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。
- 【▲】【▼】で“MF”を選びます。
 - 手順5で拡大表示される範囲が枠で囲まれます。
- 【SET】を押します。



枠

- 【液晶モニター】で確認しながら【◀】【▶】を押してピントを合わせます。

【◀】：近い側にピントを合わせる

【▶】：遠い側にピントを合わせる

- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。




マニュアルフォーカスの位置

- 【シャッター】を押して撮影します。

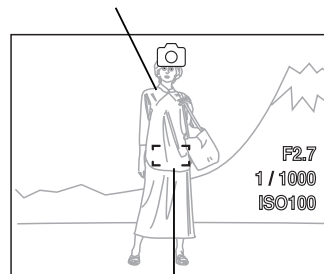
- 参考
- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(47ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例：MF 17cm - ∞

フォーカスロック

【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード()で使用できます。

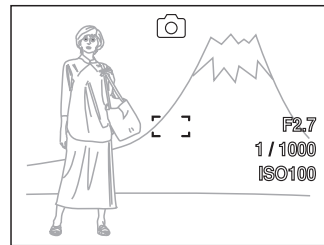
1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、【シャッター】を半押しします。

ピントを合わせたい被写体



【フォーカスフレーム】

2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。



3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考 • フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

露出を補正する(EVシフト)

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正值：-2.0EV~+2.0EV
補正単位：1/3EV

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “画質設定”タブ→“EVシフト”と選び、【▶】を押します。



露出補正表示

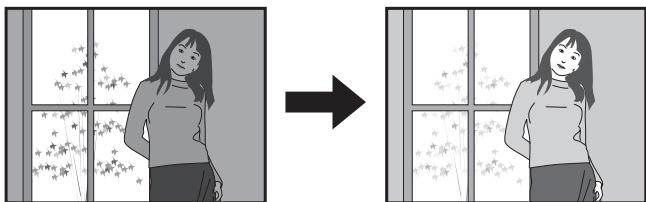
3. 【▲】【▼】で露出補正値を選び、【SET】を押します。

- これで露出補正値が設定されました。

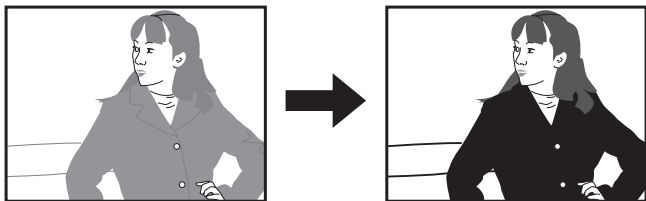


露出補正表示

【▲】：+方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。



【▼】：-方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。



- 露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

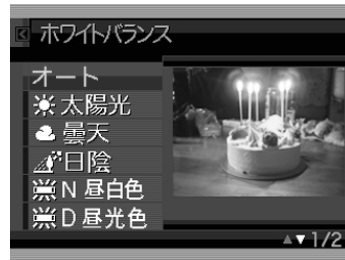
- 参考**
- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(92ページ)。
 - キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(87ページ)。ヒストグラム表示(85ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。



3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

- オート : 自動的にホワイトバランスを調整します。
- 太陽光 : 晴天時の野外での撮影用
- 曇天 : 薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
- 日陰 : ビルの陰など極端に色温度が高いところでの撮影用
- N 昼白色 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
- D 昼光色 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

- 電球 : 電球の雰囲気を消した撮影用
- マニュアル : その場の光源に合わせて手動で設定します。
詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(66ページ)を参照してください。

- 参考**
- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など光源を指定する固定モードをご使用ください。
 - キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(87ページ)。
 - キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときにアイコンガイド(89ページ)を使用している場合は、“AWB”オートWB”を選んでください。

マニュアルホワイトバランスを設定する

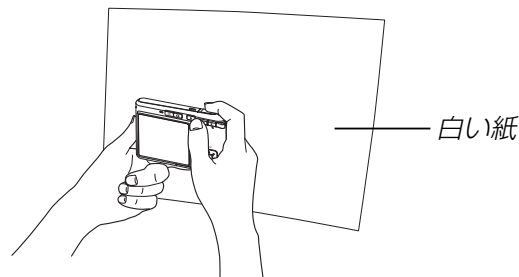
ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードでは、複数の光源下など難しい環境において調整できる範囲に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定のために、白い紙を用意しておいてください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“マニュアル”を選びます。

- 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、操作5に進んでください。



4. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。



- “完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。


5. 【SET】を押します。

- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

- 参考**
- 一度設定したマニュアルホワイトバランスは、新たにマニュアルホワイトバランスを設定し直さない限り、電源を入/切しても保持されたままとなります。

連続撮影する(連写モード)

【シャッター】を押すたびに1枚だけ撮影する1枚撮影と異なり、【シャッター】を押し続けている間、メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“連写”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。
 - 【液晶モニター】に“”が表示されます。
 - “切”を選ぶと、通常の一枚撮影になります
4. 【シャッター】を押して撮影します。
 - 【シャッター】を押し続けている間、連続撮影します。
 - 【シャッター】から指を離すと、撮影は終了します。

重要! • 連写の速度は、使用するカードの種類によって異なります。内蔵メモリーを使用すると連写の速度は遅くなります。

さまざまなシーンを選んで静止画または動画を撮影する(ベストショットモード)

あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

■シーンのサンプル画像例

- 人物を写す



- 風景を写す



- 夜景を写す



- 人物と夜景を写す



1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。

- ベストショットモードに設定すると、12個のシーンのサンプル画像一覧が表示されます。
- 内蔵シーンには、静止画と動画の両方で利用できるシーン、静止画専用のシーン、動画専用のシーン、音声記録(ボイスレコード)専用のシーンの4種類があります。
- サンプル画像は左上から順に画像が表示されます。



2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。

- 【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、枠が画面の左上端または右下端まで行くと、次の12個のサンプル画像一覧を表示します。
- 【MENU】を押すと、枠が先頭のシーン(“オート”)へジャンプします。
- 【BS】を押すと、別のシーンを選び直すことができます。また、現在選ばれているシーンを、確認することもできます。
- “オート”のシーンを選ぶと、撮影の種類は静止画のオート撮影(“📷”点灯)になります(42ページ)。

3. 静止画を撮影するときは、【シャッター】を押します。動画を撮影するときは、【●】(MOVIE)を押します。

- 動画撮影を終了させたいときは、もう一度【●】(MOVIE)を押してください。

- 重要!**
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
 - 名刺や書類、ホワイトボードのシーンでは、動画撮影ができません。ショートムービー、パストムービーのシーンでは、静止画撮影ができません。ボイスレコードのシーンでは、動画撮影と静止画撮影の両方ができません。
 - 選んだシーンによっては、静止画が撮れない場合や動画が撮れない場合があります。
 - 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
 - 選んだシーンの各種設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を、再度使用したい場合、カスタム登録をご利用ください。

- 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行っています。このノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、手ブレを防ぐために、三脚の使用をおすすめします。

参考

- ベストショットモードで電源を入れたとき、約2秒間、操作ガイドと現在選ばれているシーンのサンプル画像が表示されます。

1つの画面に、1つのシーンのサンプル画像を表示する

ベストショットモードで内蔵しているシーンのサンプル画像を1つずつ表示させて、撮影したいシーンを選ぶことができます。撮影条件を画面上で確認することができます。

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。

2. 【ズームボタン】の $\left[\begin{array}{c} \uparrow \\ \downarrow \end{array} \right]$ (望遠)側を押します。

- 12個のサンプル画像一覧表示から、最後に選んだサンプル画像のシーンに切り替わります。



- 【ズームボタン】の $\left[\begin{array}{c} \square \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ (広角)側を押すと、1つのシーンのサンプル画像から12個のサンプル画像一覧表示に戻ります。

3. 【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。

- 【MENU】を押すと、シーンのサンプル画像は先頭のシーン(“オート”)に切り替わります。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

撮影したいシーンを登録する(カスタム登録)

今まで撮影した静止画または動画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“新規登録”のシーンを選び、【SET】を押します。
3. 【◀】【▶】を押して、登録したい静止画または動画を選びます。



4. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。
 - 登録が完了し、撮影できる状態になります。以降、68ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。

- 重要!**
- 本機内蔵のシーンのあとに“マイベストショット”(カスタム登録したシーン)の順番でシーンが登録されます。
 - 静止画を登録すると静止画専用のシーンに、動画を登録すると動画専用のシーンになります。それぞれ静止画を撮るとき、動画を撮るときにのみ有効となります。
 - カスタム登録した静止画のシーンを選ぶと、画像の右上に「SUn(n=1~)」と表示されます。カスタム登録した動画のシーンを選ぶと、画像の右上に「MUn(n=1~)」と表示されます。
 - 内蔵メモリーをフォーマット(130ページ)すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいます。

- 参考**
- 静止画で登録される設定内容は下記の通りです。
フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
また、動画で登録される設定内容は下記の通りです。
フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
 - 登録できるのは本機で撮影された静止画および動画だけです。
 - 登録可能件数は最大999件です。
 - 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
 - カスタム登録した静止画用のシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます。また、カスタム登録した動画用のシーンは、内蔵メモリー内の「MSCENE」フォルダに保存されます。ファイル名は、「US500nnn.JPE (n=0~9)」となります。

登録したシーンを削除する


自分で登録(カスタム登録)したシーンを削除することができます。

1. ベストショットモード中に【SET】を押します。
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で削除したいシーンを選びます。
3. 【▼】(📄)を押します。
4. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押します。
5. 【MENU】を押します。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに起きやすい手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

1. 次のどちらかの操作により、ブレ軽減撮影状態に設定します。

- ベストショットモードから設定する場合
 - ① RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。
 - ② 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ブレ軽減”のシーンを選び、【SET】を押します。
- メニュー画面から設定する場合
 - ① RECモードにして【MENU】を押します。
 - ② “撮影設定”タブ→“ブレ軽減”と選び、【▶】を押します。
 - ③ 【▲】【▼】で“オート”を選び、【SET】を押します。
- ブレ軽減撮影状態に設定すると、【液晶モニター】にブレ軽減アイコンが表示されます(23ページ)。

2. 【シャッター】を押して撮影します。

- 重要!**
- ISO感度を“オート”以外に設定すると、ブレ軽減機能は働かなくなりますので、ブレ軽減で撮影するときは、必ずISO感度を“オート”に設定してください(91ページ)。
 - ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
 - 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
 - 動画撮影では、手ブレ軽減効果はありません。
 - シャッター速度が遅くなる撮影をした場合、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。

感度を上げて撮影する(高感度撮影)

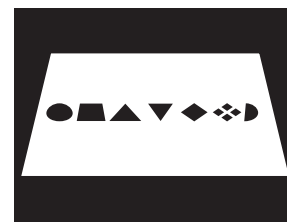
通常では露出不足で撮影できないような暗い場所で撮影するとき、感度を上げて明るく撮影することができます。

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“高感度”のシーンを選び、【SET】を押します。
3. 【シャッター】を押して撮影します。

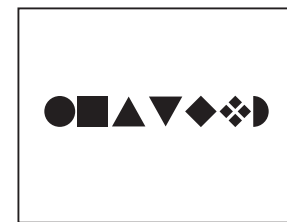
- 重要!**
- ISO感度を“オート”以外に設定すると、高感度撮影機能は働かなくなりますので、高感度で撮影するときは、必ずISO感度を“オート”に設定してください(91ページ)。
 - “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
 - 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
 - シャッター速度が遅くなる撮影をした場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット機能)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットでは、斜めから撮影した画像を自動的に正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



補正処理前



補正処理後

■ ビジネスショット用シーン

- 名刺や書類を写します
- ホワイトボードなどを写します



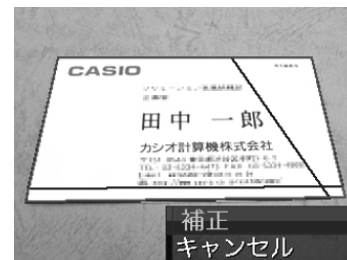
- 重要!**
- 被写体が【液晶モニター】に収まるような構図で撮影してください。被写体が【液晶モニター】からはみ出すと認識できません。
 - 被写体と背景が同色の場合、認識できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
 - ビジネスショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。

- 参考**
- 名刺や書類の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は台形歪みが生じた画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

ビジネスショット機能で撮影する

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】でビジネスショット用のシーンを選び、【SET】を押します。
3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 補正確認画面が表示されます。ただし、補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(183ページ)。その後、撮影した元画像を保存します。



4. 【◀】【▶】で補正候補を選びます。

5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押します。

- “キャンセル”を選ぶと、補正せずに撮影した元画像を保存します。



- 重要!** ● ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても1600×1200pixelsの画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が1600×1200pixelsよりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

動画を撮影する

メモリー容量いっぱい、音声付き高画質動画を撮影することができます。用途に応じて画質を選ぶことができます。また、さまざまな動画撮影機能を選ぶことができます。

- ファイル形式：AVI形式 MPEG-4準拠
- 撮影可能なムービーの時間
一度に撮影可能な最長時間：メモリー容量による
- 動画ファイルサイズ(1分間録画時)
約28.4MB(画質“高品位-HQ”設定時)
約14.9MB(画質“標準-Normal”設定時)
約5.3MB(画質“長時間-LP”設定時)


撮影する(応用編)

- 動画撮影の種類について
 - ムービー
標準的な動画を撮影します(77ページ)。
 - ショートムービー
【●】(MOVIE)を1回押すと、その前後の数秒間の動画が記録されます(77ページ)。
 - パストムービー
【●】(MOVIE)を押す約5秒前から動画が記録されます。決定的瞬間の撮り逃しを防ぐことができます(79ページ)。
 - ショートムービー、パストムービー以外のベストショットモードでの動画撮影
簡単に綺麗な動画を撮影したいときに設定します。あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選び、煩わしい設定をカメラにまかせることができます(67ページ)。

参考 ● 撮影した動画ファイルは、Windows Media Player9を使用して、パソコン上で再生することもできます。

動画の画質を設定する

撮影前に、動画撮影時の画質を設定します。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、記録できる撮影時間は短くなります。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“ 画質”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

	設定内容	転送レート	フレームレート
高画質	高品位-HQ (640×480 pixels)	約4.1メガビット/秒	30フレーム/秒
↕	標準-Normal (640×480 pixels)	約2.0メガビット/秒	30フレーム/秒
低画質	長時間-LP (320×240 pixels)	約745キロビット/秒	15フレーム/秒